

スズメダイ科魚類 *Chromis analis* ヒマワリスズメダイ (新称) と *C. albicauda* コガネスズメダイの日本における記録と標準和名

岩坪 洸樹¹・本村 浩之^{2*}

¹〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学部)

²〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

Japanese records and standard Japanese names of *Chromis analis* and *C. albicauda* (Perciformes: Pomacentridae)

Hiroki Iwatsubo¹ and Hiroyuki Motomura²

¹Kagoshima University Museum (Faculty of Fisheries), 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

²Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

Abstract. *Chromis analis* (Cuvier in Cuvier & Valenciennes, 1830) and *C. albicauda* Allen & Erdmann, 2009 (Perciformes: Pomacentridae) were confirmed to be distributed in Japanese waters on the basis of collected specimens and underwater photographs. Morphological comparisons of these two species were made, with assessments of standard Japanese names for the two. “Himawari-suzumedai” is herein proposed for *C. analis* as the standard Japanese name.

Key words: Pomacentridae, *Chromis analis*, *Chromis albicauda*, Japanese names, Japanese records.

(要約)

スズメダイ科魚類の2種 *Chromis analis* (Cuvier in Cuvier & Valenciennes, 1830) と *C. albicauda* Allen & Erdmann, 2009 の日本における分布を標本と水中写真に基づいて確認した。本研究では、両種の形態比較を行い、適応すべき標準和名の検討を行った。その結果、*C. albicauda* にはコガネスズメダイを適用することが妥当であると判断し、一方 *C. analis* には適用すべき和名がないことが分かった。本研究では *C. analis* に対して新標準和名ヒマワリスズメダイを提唱した。

スズメダイ科スズメダイ属 (Pomacentridae: *Chromis*) は、日本国内から31種が報告されている (青沼・吉野, 2000; 鈴木ほか, 2001; Senou & Kudo, 2007; 吉郷ほか, 2007)。Allen & Erdmann (2009) は、*Chromis analis* (Cuvier in Cuvier & Valenciennes, 1830) と同定されていたスズメダイ属魚類のうち、生時の尾鰭の色彩が異なる2型の存在を認め、インドネシア・プニダ島クリスタル湾から得られた尾鰭が白い9標本 (標

準体長79.6-133.7 mm) に基づいて新種 *Chromis albicauda* Allen & Erdmann, 2009 を記載した。その後、Motomura *et al.* (2010) は日本国内では初めて *C. analis* と *C. albicauda* を区別して記録した。しかし、彼らの記録はいずれも水中写真に基づき、両種に適応すべき標準和名の検討もされていない。

本研究において両種の標準和名について検討したところ、*C. analis* には適用すべき和名が

*連絡先 (Corresponding author): motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

スズメダイ科魚類2種の標準和名

Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of *Chromis analis* and *C. albicauda*. Means in parentheses.

	<i>C. analis</i> n = 3	<i>C. albicauda</i> n = 9
Standard length (SL; mm)	81.8–117.9	14.4–131.4
Counts		
Dorsal-fin rays	XIII, 12	XIII, 12
Anal-fin rays	II, 10–11	II, 12
Pectoral-fin rays	19	19
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
Spiniform caudal-fin rays	3	3
Principal caudal-fin rays	15	15
Gill rakers	6–7 + 18–19	6–7 + 16–19 ¹
Tubed lateral-line scales	15–16	17–18 ²
Preorbital scale rows	1–2	4–5 ¹
Suborbital scale rows	1	1–2 ¹
Measurement (% SL)		
Body depth	52.3–53.9 (53.2)	49.5–54.2 (51.6)
Body width	18.9–20.4 (19.6)	17.9–20.1 (19.5)
Head length	28.8–33.1 (30.2)	30.1–45.8 (33.8)
Snout length	7.5–9.3 (8.3)	6.8–9.1 (8.2)
Orbit diameter	9.1–10.2 (9.5)	9.5–17.4 (12.2)
Interorbital width	10.3–12.2 (11.4)	11.0–15.3 (12.1)
Caudal-peduncle depth	13.7–14.5 (14.0)	13.8–18.1 (14.9)
Caudal-peduncle length	12.6–14.5 (13.5)	11.1–15.3 (13.1)
Upper-jaw length	9.2–9.6 (9.4)	8.9–16.0 (10.7)
Predorsal-fin length	41.8–44.6 (42.9)	40.9–51.4 (43.2)
Preanal-fin length	71.5–75.7 (73.1)	64.7–74.6 (70.3)
Prepelvic-fin length	42.2–44.9 (43.2)	42.1–52.1 (44.8)
Dorsal-fin base length	59.9–60.7 (60.3)	53.5–63.6 (59.1)
Anal-fin base length	21.4–22.4 (21.9)	21.0–24.7 (23.2)
Pectoral-fin length	31.0–35.0 (33.3)	27.7–32.8 (31.1) ²
Pelvic-fin soft ray length	24.6–28.9 (26.8)	24.2–35.4 (28.8)
Pelvic-fin spine length	16.1–16.5 (16.3)	14.6–18.9 (16.7)
1st dorsal-fin spine length	5.2–6.9 (6.1)	6.3–11.1 (7.9)
2nd dorsal-fin spine length	8.1–10.9 (9.6)	9.7–16.7 (12.4)
7th dorsal-fin spine length	15.9–17.7 (16.6)	14.6–18.6 (17.3)
Last dorsal-fin spine length	13.3–13.7 (13.5)	9.0–14.6 (12.4)
Longest dorsal-fin soft ray length	21.7–24.2 (23.2)	19.5–23.0 (21.2) ¹
1st anal-fin spine length	6.6–6.7 (6.6)	5.6–9.2 (7.2)
2nd anal-fin spine length	20.4–20.6 (20.5)	15.1–23.0 (18.4)
Longest anal-fin soft ray length	18.2–20.4 (19.4)	18.7–22.6 (20.3) ²
Caudal-fin length	30.8–35.0 (32.3)	25.7–34.5 (31.5) ¹
Caudal-fin concavity	15.8–18.1 (16.9)	9.9–16.1 (13.6) ¹

¹ based on 6 specimens; ² 8 specimens; ³ 7 specimens.

ないこと、*C. albicauda*にはコガネスズメダイを適応すべきであることが明らかになった。本研究では両種の日本産標本に基づく形態比較を行うとともに、*C. analis*に対して新標準和名を提唱した。

材料と方法

計数・計測方法は概ね Allen & Erdmann (2009) に従った。標準体長は体長と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。鰓耙数は右体側のものを計数した。涙骨上の鱗列

(Preorbital scale rows) は眼窩前縁下方・主上顎骨間の鱗の横列数, 眼下骨上の鱗列 (Suborbital scale rows) は眼下骨上の鱗の横列数を計数した. *Chromis analis* と *C. albicauda* の計数・計測形質は Table 1 に示す.

本報告で用いた標本は高知大学理学部海洋生物学研究室 (BSKU), 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM), フランス国立自然史博物館 (MNHN), および琉球大学理学部海洋自然科学科 (URM) に保管されている. *Chromis analis* と *C. albicauda* の生鮮時の体色はそれぞれ KAUM-I. 29566 (Fig. 1) と KAUM-I. 29605 (Fig. 2) のカラー写真を参考に比較した. 分布の確認に用いた水中写真は神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録されている.

本研究で用いた標本は以下のとおり. *Chromis analis*: KAUM-I. 29566, 体長95.9 mm, 鹿児島県三島村硫黄島南側 (30°46'32"N, 130°16'43" E), 2010年5月26日, 水深10–60 m, タモ網, KAUM魚類チーム; KAUM-I. 29567, 体長117.9 mm, 採集データはKAUM-I. 29566と同じ; URM-P 38214, 体長100.6 mm, 沖縄県国頭郡恩納村万座毛, 1997年7月5日, 吉郷英範. *Chromis albicauda*: BSKU 7161, 体長117.4 mm, 高知県須崎, 1951年3月12日; BSKU 7486, 体長131.4 mm, 高知県大月町柏島, 1957年10月10日; BSKU 8554, 体長123.6 mm, 高知県須崎, 1959年7月7日; KAUM-I. 29605, 体長143.0 mm, 鹿児島県三島村硫黄島西側 (30°47'04"N, 130°15'42"E), 2010年5月28日, 水深5–20 m, タモ網, KAUM魚類チーム; URM-P 1793, 体長113.5 mm, 高知県土佐湾, 1981年8月, 南西海区水産研究所; URM-P 1794, 3個体, 体長14.4–37.0 mm, 静岡県伊東市富戸伊豆海洋公園, 1977年3月; URM-P 20868, 体長121.4 mm, 沖縄島, 1989年1月26日, 坂下光洋.

Chromis albicauda の水中写真は以下のとおり (静岡県は県名を省略). KPM-NR 1614, 沼津市西浦大瀬崎, 1994年7月17日, 反田健児; KPM-NR 3971, 伊東市富戸伊豆海洋公園, 1989年3月

12日, 深沢安雄; KPM-NR 4480, 東京都伊豆諸島八丈島, 1993年4月20日, 加藤昌一; KPM-NR 6245, 伊東市富戸伊豆海洋公園, 1995年12月30日, 浅野 勤; KPM-NR 8858, 沼津市西浦大瀬崎, 1996年1月16日, 松沢陽士; KPM-NR 13541, 東京都伊豆諸島伊豆大島秋の浜, 1996年11月24日, 山田陽介; KPM-NR 13693, 熱海市, 1994年3月13日, 武谷 洋; KPM-NR 22137, 沼津市西浦大瀬崎, 1991年10月19日, 大塚幸彦; KPM-NR 23095, 沼津市西浦大瀬崎, 1997年6月19日, 杉森雄幸; KPM-NR 24041, 和歌山県西牟婁郡串本町串本, 1997年8月27日, 池田 泉; KPM-NR 24893, 沼津市西浦大瀬崎, 1995年9月18日, 檀野清司; KPM-NR 24894, 伊東市富戸, 1996年11月27日, 檀野清司; KPM-NR 24895, 伊東市富戸, 1997年2月27日, 檀野清司; KPM-NR 24896, 伊東市富戸, 1997年3月31日, 檀野清司; KPM-NR 26046, 和歌山県西牟婁郡串本町串本, 1996年8月27日, 阪東健司; KPM-NR 27065, 高知県幡多郡大月町柏島, 1998年7月30日, 狐塚英二; KPM-NR 86444, 伊東市富戸伊豆海洋公園2000年2月17日, 浅野 勤; KPM-NR 86445, 伊東市富戸伊豆海洋公園2001年1月12日, 浅野 勤.

結果と考察

Chromis analis は Cuvier in Cuvier & Valenciennes (1830) によってインドネシアのアンボンから得られた1標本 (MNHN 8146, 体長78.0 mm; Fig. 3) に基づき *Heliases analis* として記載された. 最近, Allen & Erdmann (2009) はインドネシアのプニダ島クリスタル湾から得られた9標本 (体長79.6–133.7 mm) に基づいて, *C. albicauda* を *C. analis* に近縁な新種として記載した. Allen & Erdmann (2009) は益田・小林 (1994: 223, 図7, コガネスズメダイ *Chromis analis* として, 伊豆半島) と Kuitert & Debelius (2006: 529, unnumbered fig., *Chromis cf analis* として, 日本) の写真に基づき *C. albicauda* が日本に生息するとしたが, 彼らは日本産の標本を調査していな



Fig. 1. Color photograph of fresh specimen of *Chromis analis* from Iou-jima Island, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 29566, 95.9 mm SL).



Fig. 2. Color photograph of fresh specimen of *Chromis albicauda* from Iou-jima Island, Kagoshima, Japan (KAUM-I. 29605, 143.0 mm SL).

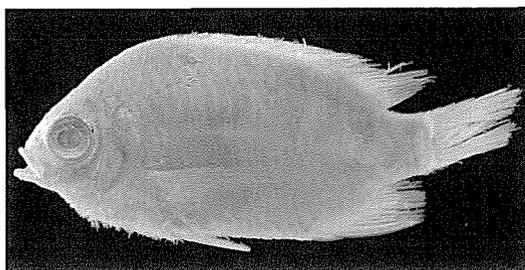


Fig. 3. Holotype of *Heliases analis* (MNHN 8146, 78.0 mm SL).

い。

Chromis analis (Figs. 1, 3) と *C. albicauda* (Fig. 2) は、主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁辺が円滑であること、背鰭が13棘12軟条であること、胸鰭が19軟条であること、尾鰭棘が上下に各3本あること、生時の体色が黄色味をおびることなどの特徴を共有し、互いにきわめて類似する (Allen & Erdmann, 2009; 本研究)。しかし、*C. analis* は *C. albicauda* と比較して、胸鰭基底上方の褐色斑が大きく明瞭 (vs. 小さく不明瞭)、涙骨上の鱗列が1-2 (vs. *C. albicauda* では4-5)、眼下骨上の鱗列が1 (vs. 1-2)、全鰓耙数の平均値と下枝の鰓耙数の平均値がそれぞれ24.0と17.7 (vs. それぞれ25.0と18.3; Allen & Erdmann, 2009では、それぞれ25.0と17.5 vs. 27.0と19.8)、側線有孔鱗数が15-16 (vs. 17-19)、背鰭鰭条が短く、頭長が背鰭第1棘長の4.7-5.6倍、背鰭最長軟条長の1.2-1.4倍であること (vs. それぞれ3.8-4.9倍と1.4-1.6倍; Allen & Erdmann, 2009では、それぞれ5.1-6.0倍と1.8-2.0倍 vs. 3.7-4.7倍と1.6-1.8倍)、肛門が体側面と同様に黄色である (vs. 黒い) などの形質によって識別される (Allen & Erdmann, 2009; 本研究: Table 1, Figs. 1-3)。Allen & Erdmann (2009) は成魚の最大体長を *C. analis* が92.4 mm、*C. albicauda* が133.7 mmと報告している。本研究で調査した標本においても最大体長は *C. analis* が117.9 mm、*C. albicauda* が131.4 mmであり、Allen & Erdmann (2009) の結果とほぼ一致するが、*C. analis* はこれまで考えられていたより若干大き

くなることが分かった。なお、Allen & Erdmann (2009: 129) は、両種の比較でlength of longest dorsal-fin spineについて言及しているが、その値からlength of longest dorsal-fin soft rayの誤植であると思われる。

Allen & Erdmann (2009) では触れられていないが、*C. albicauda* は生時の尾鰭がふつう白色であるものの、周辺環境や体調によって黄色に変わる場合があり (原崎 森氏, 私信)、死後 (固定前) も尾鰭が黄色になる (Fig. 2)。一方、*C. analis* の尾鰭は、生時、生鮮時ともに黄色で、白色に変化することはない。

Chromis analis はインドネシア、マーシャル諸島を除くマイクロネシア、オーストラリアのグレートバリアリーフ、フィジーなどの西部太平洋に広く分布し、バリ島では *C. albicauda* と同所的に出現する (Allen & Erdmann, 2009)。日本国内ではこれまで *C. analis* と *C. albicauda* が混同されており、Motomura *et al.* (2010) の屋久島産の水中写真が両種を識別した日本における初めての正確な記録である。本研究では標本に基づいて *C. analis* を鹿児島県と沖縄県、*C. albicauda* を静岡県、高知県、鹿児島県、および沖縄県から記録した。また、神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベースに *C. analis* として登録されていた水中写真のうち、伊豆大島、八丈島、伊豆半島、和歌山県、高知県で撮影された18枚 (各写真のデータは材料と方法を参照) は、体が黄色で尾鰭が白色であることから本研究によって *C. albicauda* と同定された。

標準和名の検討 蒲原 (1930) は *Chromis xanthochira* と *C. analis* を高知県柏島から報告し、柏島における地方名としてそれぞれオカスミヤキコゴロオとスミヤキコゴロオ、沖ノ島の地方名としてそれぞれクロチグとチクリンをリストしたが、両種についての標準和名は付記しなかった (リスト中には標準和名を付記した種もある)。また、Tanaka (1931) は日本産魚類のリストの中で和名を付記せずに *C. xanthochira* と *C. analis* を報告した。その後、岡田 (1938) は日本

産脊椎動物目録で *C. xanthochira* と *C. analis* を報告し、標準和名をそれぞれコガネスズメダイとシリスズメダイとした。岡田 (1938) は学名のリストに対して標準和名を与えただけで、記載はなく用いた標本も示されていないが、両種の分布に四国を含めていることから、蒲原 (1930) を引用したことは間違いない。本研究では岡田 (1938) 以前にコガネスズメダイとシリスズメダイの両和名を提唱した報告を確認することができず、これらの和名は岡田 (1938) により使用されたのが最初である可能性が高い。

Aoyagi (1941) は、Tanaka (1931) の記録を引用して *C. xanthochira* と *C. analis* を日本産スズメダイ科魚類のリストに含め、前者の和名をコガネスズメダイ、後者をシリスズメダイとした。Aoyagi (1941) は両種に関する日本国内の研究報告として、Tanaka (1931) のみを引用し、岡田 (1938) を引用していない。しかし、Aoyagi (1941) の謝辞には岡田彌一郎博士からのアドバイスを受けた旨が書かれており、その助言をもとに岡田 (1938) と同様に *C. xanthochira* と *C. analis* の和名をそれぞれコガネスズメダイとシリスズメダイとしたと考えられる。Aoyagi (1941) の *C. analis* の記載は1標本に基づいており、林 (1995) はその標本 (YCM-P 31410, 体長45.3 mm, 沖縄県糸満, 1939年, 蜂須賀 正) をクロスズメダイ *Neoglyphidodon melas* と再同定した。Aoyagi (1941) の *C. analis* の記載 (背鰭が13棘14軟条, 臀鰭が2棘13軟条, 側線有孔鱗数が17, 鰓耙数が10+18) もクロスズメダイの計数形質とよく一致する。一方、Aoyagi (1941) の *C. xanthochira* の記載は日本産の標本に基づいておらず、Günther (1862) による本種の原記載をそのまま引用したにすぎない。なお、Günther (1862) の *C. xanthochira* の記載は、インドネシアのバンダ諸島から採集された1標本 (体長約140 mm) に基づいている。

Kamohara (1957, 1960) はそれぞれ奄美大島産魚類のリストと日本産スズメダイ属魚類のリストに *C. xanthochira* を含め、和名コガネスズメダイを用いた。しかし、彼が報告した *C.*

xanthochira は、記載や図より主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁辺が円滑であること、前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁が黒いこと、背鰭が13棘であること、臀鰭が10-11軟条であることからタカサゴスズメダイ *Chromis weberi* と再同定された (Randall *et al.*, 1981; 本研究)。益田ほか (1980) は日本国内において *C. xanthochira* と *C. analis* が混同され、前者の日本からの確実な記録はないとし、後者に和名コガネスズメダイを適用した。その後の日本国内からの報告でも *C. analis* に和名コガネスズメダイが用いられている (Randall *et al.*, 1981; 青沼・吉野, 2000; 吉郷ほか, 2007)。前述のように、過去に日本から報告された *C. xanthochira* は別の種の誤同定あるいは正体が不明であったが、最近、本種は吉郷ほか (2007) によって琉球列島から日本初記録として報告され、和名タソガレスズメダイが与えられた。

Kamohara (1960) は高知県産の標本 (BSKU 7161, 体長117.4 mm; BSKU 7486, 体長131.4 mm; BSKU 8554, 体長123.6 mm) に基づき *Chromis cinerascens* を日本から初めて報告し、和名キイロスズメダイを提唱した。しかし、本研究で Kamohara (1960) が報告した標本を調査したところ、主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁辺が円滑であること、尾鰭棘が上下に各3本ずつあること、胸鰭基底上方の褐色斑が小さく不明瞭であること、肛門が黒いこと、涙骨上の鱗列が4-5、眼下骨上の鱗列が1-2であること、側線有孔鱗が17-18枚であることなどから *C. albicauda* と同定された。

先述のように、岡田 (1938) や益田ほか (1980) などのコガネスズメダイが *C. analis* かあるいは *C. albicauda* か判断できないため、本研究では日本魚類学会標準和名検討委員会 (2005) の答申にしたがって青沼・吉野 (2000) が *C. analis* として記載した種をコガネスズメダイとする。青沼・吉野 (2000) のコガネスズメダイの図は、琉球大学に所蔵されている高知県産の標本に基づいている (青沼佳方氏, 私信)。本研究で琉球大学所蔵標本の調査を行ったところ、青沼・

吉野 (2000) の図に使用された標本は URM-P 1793 であることが分かった。本研究で URM-P 1793 を調査したところ、本標本は主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁辺が円滑であること、尾鰭棘が上下に各 3 本ずつあること、胸鰭基底上方の褐色斑が小さく不明瞭であること、肛門が黒いこと、涙骨上の鱗列が 4-5、眼下骨上の鱗列が 1-2 であること、側線有孔鱗数が 17 であることなどから *C. albicauda* と同定された。したがって、*C. albicauda* に対してキイロスズメダイ (Kamohara, 1960) とコガネスズメダイ (青沼・吉野, 2000) の 2 和名が適用されているが、本研究では和名の安定性と魚類学会の答申を考慮し、*C. albicauda* コガネスズメダイとする。一方、*C. analis* に適用すべき標準和名は提唱されていないため、鹿児島県硫黄島産の 1 標本 (KAUM-I. 29566, 体長 95.9 mm: Fig. 1) に基づき、新標準和名ヒマワリスズメダイを提唱する。新標準和名は、本種の体色 (さえた黄色) と丸みを帯びた体型がヒマワリの花を連想させることに因む。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、佐藤 浩氏、佐藤央隆氏、梶原一男氏、徳田和良氏、樋渡俊一氏、安永 孝氏には硫黄島での調査の際に様々な便宜を図って頂いた。遠藤広光博士 (BSKU)、吉野哲夫氏 (URM) ならびに Romain Causse 氏 (MNHN) には標本を調査する機会を頂いた。神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士には文献情報を提供して頂いた。高知大学理学部海洋生物学研究室の山川 武氏、片山英里女史、中山直英氏、ならびに清沢遼太郎氏には標本調査の際に様々な便宜を図って頂いた。西海区水産研究所の青沼佳方氏と桜井 雄氏 (沖縄市) には所蔵標本に関する情報を提供して頂いた。屋久島ダイビングサービス「森と海」代表の原崎 森氏には生時の *C. albicauda* の色彩に関する情報を提供して頂いた。鹿児島大学連合農学研究科の荻原豪太氏

には標本採集の協力や本原稿に対し適切な助言を頂いたほか、*H. analis* のタイプ標本の調査において多大な協力を頂いた。ダイビングサービス「海案内」の出羽慎一氏、ダイビングサービス「海工房」の古田和彦氏、鹿児島大学連合農学研究科の松沼瑞樹氏と目黒昌利氏、鹿児島大学水産学研究科の山下真弘氏と吉田朋弘氏、鹿児島大学水産学部の太田竜平氏と大橋祐太氏には標本採集の協力や本原稿に対し適切な助言を頂いた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの生駒葉子女史、伊東正英氏、高山真由美女史ならびに原口百合子女史には標本の処理・登録作業などを手伝って頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト (浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る)」の一環として行われた。

引用文献

- Allen, G. R. & Erdmann, M. V., 2009. Two new species of damselfishes (Pomacentridae: *Chromis*) from Indonesia. *Aqua, Inter. J. Ichthyol.*, **15** (3): 121-134.
- 青沼佳方・吉野哲夫, 2000. スズメダイ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第二版: 918-950, 1577. 東海大学出版会, 東京.
- Aoyagi, H., 1941. The damsel fishes found in the waters of Japan. *Transactions biogeogr. Soc. Japan*, **4** (1): 157-279.
- Cuvier, G. & Valenciennes, A., 1830. Histoire naturelle des poissons Vol. 5. Chez F. G. Levrault, Paris. xviii + 499 + 4 pp., pls 100-140.
- Günther, A., 1862. Catalogue of the Acanthopterygii, Pharyngognathi and Anacanthini in the collection of the British Museum. Catalogue of the fishes in the British Museum Vol. 4. Trustees of the British Museum, London. xxi + 534 pp.
- 林 公義, 1995. 横須賀市自然博物館所蔵魚類資料目録 (III) — 青柳兵司博士収集魚類目録 —. 横須賀市博物館資料集, (20): 1-70.

- 蒲原稔治, 1930. 土佐柏島附近採集魚. 動物学雑誌, **42** (506): 479-486.
- Kamohara, T., 1957. A list of fishes from Amami-oshima and adjacent regions, Kagoshima Prefecture, Japan. *Res. Usa Mar. Biol. St.*, **4** (1): 1-65.
- Kamohara, T., 1960. On the fishes of the genus *Chromis* (family Amphiprionidae, Chromides, Pisces), found in the waters of Japan. *Res. Usa Mar. Biol. St.*, **7** (1): 1-10. pl. 1.
- Kuiter, R. H. & Debelius, H., 2006. World atlas of marine fishes: 720 pp. Ikan-Unterwasserarchiv, Frankfurt.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫, 1980. 改訂版魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 382 pp. 東海大学出版会, 東京.
- 益田 一・小林安雅, 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 435 pp. 東海大学出版会, 東京.
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. & Matsuura, K., 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. In Motomura, H. & Matsuura, K. (Eds), *Fishes of Yaku-shima Island — A World heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*: 65-247. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 日本魚類学会標準和名検討委員会(編), 2005. 魚類の標準和名の定義等について(答申). 魚類学雑誌, **52** (2): 179.
- 岡田彌一郎, 1938. 日本脊椎動物目録. 412 pp. 丸善, 東京.
- Randall, J. E., Ida, H. & Moyer, J. T., 1981. A review of the damselfishes of the genus *Chromis* from Japan and Taiwan, with description of a new species. *Japan. J. Ichthyol.*, **28** (3): 203-242.
- Senou, H. & Kudo, T., 2007. A new species of the genus *Chromis* (Perciformes: Pomacentridae) from Taiwan and Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl.*, **1**: 51-57.
- 鈴木寿之・瀬能 宏・矢野維幾, 2001. 日本における分布が確認されたアンボンスズメダイ(新称). *I. O. P. Diving News*, **12** (5): 2-4.
- Tanaka, S., 1931. On the distribution of fishes in Japanese waters. *J. Fac. Sci., Imperial Univ. Tokyo, Sec. 4, Zool.*, **3** (1): 1-90.
- 吉郷英範・竹井直行・吉野哲夫, 2007. 琉球列島で確認された日本初記録のタソガレスズメダイ(新称). 日本生物地理学会会報, **62**: 19-22.

(2010年11月2日 受理)